



まぼろしの白石村

淡路島には『淡路温故之図』という古い地図が伝わっています。

この地図は淡路島をうまくえがいているのですが、現在の淡路島と見比べると島のかたちが少しちがいます。『淡路温故



▲『淡路温故之図』(淡路市立津名図書館)

之図』には、南あわじ市の灘地区から沼島に向けて、現在存在しない土地がえがかれています。そして、この土地にあった白石村ほか5つの村が室町時代の明応9(1500)年の大地震でしずんだと記述されているのです。この大地震、一体どんなものだったのでしょうか。

淡路島が関係する大地震としては、まずはプレート境界型の南海地震があります。明応7(1498)年の南海地震は静岡県県の浜名湖を海とつなげたといわれますが、『淡路温故之図』はこの地震のことをいっているのでしょうか。

また、淡路島と沼島の間には中央構造線が走っており、この断層の起こす地震などが高さ300m以上のがけをつくってきました。白石村をしずめたのはこの活断層が起こした地震だったのでしょうか。

かつて白石村があったという話は南あわじ市灘地区には長く伝わっており、



▲海に面したがけ(南あわじ市灘地区)

海がすんでいる日には海底に神社の鳥居が見えるという漁師もいるそうです。そんな土地をしずめる大地震なんてちょっと想像できませんが、そもそも自然の力の大きさというのは人間の想像をはるかにこえたものかもしれませんね。